



星槎大学「学友会」からのご報告

アコモデーションコース留学生奨学金授与

星槎大学「校友会」では、星槎女子サッカー部への寄付や大学のAED設置及び保守などの活動をおこなって参りました。この度、在学生支援の一環として「外国人奨学金制度」を設立いたしました。

星槎大学アコモデーションコースに在籍する、ブータン人留学生ベンジョ君とエリトリア人留学生デジェン君へ「星槎大学・大学院校友会」より奨学金を授与いたしました。当日は、留学生、全国にいる校友会メンバー、アコモデーションコースの渋谷先生、陸上部・植村監督にもご参加いただき、和やかな雰囲気でもオンライン交流をいたしました。

お二人が、語学を学びながら、大学の単位取得と東京オリパラ出場を目標に練習に励んでいるというお話を伺い、逆にお二人に「パワー」をいただきました。留学生と交流させて頂いたことで、外国人選手へのサポートの重要性やオリパラ

の意義を改めて考える機会となりました。

また、大変だったと思いますが、奨学金の申請書の作成・予算内での物品購入を考えたりすることも、お二人の糧になるのではないかと思います。

そして、コロナウイルスの一日も早い終息を願い、学生生活が実り多いものとなることを願っております。今後も「校友会」として微力ながら、星槎でがんばっている人々に応援を続けて参ります。
(星槎大学事務局 依田真知子)

「星槎大学・大学院校友会とは」

開学10周年を機に、卒業生を中心に更なる交流を図っていくために設立されました。会員は、星槎大学・大学院の卒業生や星槎大学・大学院で目的を達成された方が対象となっております。

奨学金への感謝とその用途について

氏名：デジェン・テスファレム・ウェルドゥ

みなさまへありがとうございます。私はみなさまのサポートのおかげで靴やインソールを新しくすることができました。私は時々怪我をしてしまうので、これらが怪我の予防になると思います。本当に心から感謝をしています。みなさまの期待を応えられるように頑張りたいです。この2年間でコロナウイルスの影響で大変になって、今は辛くなっているけども、もう少しで落ち着きます。みなさん、これからもいっしょに頑張らしましょう。

氏名：ツェリング・ベンジョ

星槎大学に在籍していることを光栄に思います。私は過去3年半、高校を含めて星槎に在籍しています。この間、星槎は、私に愛と思いやりを注いでくれました。今回の星槎大学の校友会から頂いた奨学金で、レース用の新しいスパイク、ストップウォッチ及び電気マッサージ機を購入することができました。これらのアイテムは、私が目標に向かって一歩近づくのに本当に役立ちます。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



星槎大学交流会の様子



授業前のベンジョ君(左)とデジェン君(右)



奨学金授与



ミャンマー留学生「空手」

星槎国際高校湘南所属ミャンマー留学生カウン君、ヤミンさん、スーさんの学校生活も新年度を迎え、高校生活も最終年となりました。5月に入り空手の試合も再開しています。先ず本年度初陣となった関東大会の予選、そして、国民体育大会の予選にも出場しました。結果は、惜しくも予選敗退となりましたが、3選手それぞれが空手家としての成長を実感

しつつも、取り組むべき課題や更にステップアップする伸び代を見つけることのできた試合となりました。次はいよいよインターハイ予選が行われます。一戦一戦経験したこと、学び得たこと、日々練習で取り組んでいること、これらを本番で100%以上体现できるように日々の学びと練習に励んでいきます。引き続き応援とサポートをお願いします。



左からカウくん、ヤミンさん、スーさん（国民体育大会神奈川予選）

星槎道都大学陸上部「エリトリア」

ナトナエル・トゥウェルデブルハン・テスファガブル

4月から星槎道都大学での新しい生活がスタートしました。少し寂しい時もありますが、同じ留学生のケセテや、チームメイトのサポートを借りながら徐々に大学生活にも慣れて来ました。

私は、アフリカのエリトリアを代表して、日本の文化や陸上競技を学ぶ為に留学に来了。高校時代に、脚を怪我してしまい、思うように走れなくなってしまいました。その経験を生かして、星槎道都大学では、日本語の理解力を深めながら身体の専門的な知識や、スポーツマネージメント、経営学を専門的に学んでいきたいです。また、陸上競技部の活動を通し、チームマネージメントや指導方法を少しずつ吸収していきたいと思っています。やるからには日本一のマネージャーを目指してチームの力になり少しでも多くの喜びをみんなと一緒に共有していきたいです。

大学での生活は、自分で授業を選択し、自分で料理をし、あらゆる面で自らの考えを持って行動しなければならないです。時には理解に苦しむ時もあるのですが、1つ1つが私にとって良い勉強になっています。

将来、陸上競技の指導者になり、何かの形で、日本とエリトリアの架け橋になることが私の夢です。この大学生活4年間で人間的にもしっかりと成長していきたいと思っています。



星槎道都大学陸上部マネージャー・ナトナエル

ケセテ・ハブテシオン

日本に留学に来てから4年が経ちました。大学生生活も残り4カ月となりました。大学生活での4年間は、言語の違いや文化の違いで困難な事がたくさんありました。時には、エリトリアに帰りたいと思う事もありましたが、多くの方々のサポートのお陰で大学卒業という目標にたどり着く事ができそうです。

この4年間で私は、この北海道が大好きになり、卒業して、北海道を離れる事に少し寂しさも感じます。残り4カ月、これまでサポートをして頂いた方々に感謝の気持ちを込めて走りの良い成績を残して、少しでも恩返しをしていきたいです。北海道インカレでは、10000mか5000mどちらかの種目で優勝する為に、全力で頑張ります。

今年は、出雲駅伝の予選会もあるので、後輩達と一緒に出場権を獲得して、少しでもチームに貢献できるように、陸上競技に取り組んでいきたいと思っています。卒業してからは、

日本での仕事に期待と不安がありますが、様々な事にチャレンジしていき、また、困難なことにぶつかっても大学生活4年間での経験をいかし頑張っていきたいです。

私の将来の夢は、陸上競技の指導者としてエリトリアと星槎グループの力になる事です。



4年生ケセテと1年生ナトナエル



2021年ユネスコ／日本ESD賞国内推薦事業に『SEISA Africa Asia Bridge』が選定!

ESD (Education for Sustainable Development / 持続可能な開発のための教育) とは、学習者が環境の保護、経済的な持続性、すべてのジェンダーにとって公正な社会、そして現在と将来の世代のために、文化的な多様性を尊重しつつ、責任ある行動がとれるよう、必要な知識、能力、価値観、態度を身に付けられるようにするための教育のことです。これは、全てのSDGs実現の鍵となる役割を果たすものです。

本賞は、第40回ユネスコ総会で採択され、2019年の国連総会で承認された「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて (ESD for 2030)」の枠組みの中で、ESD活動に取り組んでいる機関又は団体が実施するESDに関する優れた事業を表彰するものです。

このたび日本を代表して、文部科学省から「SEISA Africa Asia Bridge」が選定されました。今後は、7月～8月にユネスコが設置する国際審査会から候補機関・団体をユネスコ事務局長に推薦、ユネスコ事務局長が受賞機関・団体を決定する予定です。

SEISA Africa Asia Bridgeは、子どもたちがアフリカの国々について「知る」「繋がる」という目標の実現を目指し、多くの国の方々と共に、アフリカのもつ多様性の素晴らしさ、可能性について語り合い、共感し合うイベントです。第6回目となる2020年のイベントでは6チャンネル同時生配信の初のオンライン開催となり、星槎の全国の生徒、学生に加えて、アフリカ・アジアの国々、32カ国の大使館関係者、外務省、環境省、神奈川県から地域の子どもたちまで、多様な立場の55,000人の方々の参

加がありました。未来の「共生」に向けて本気で学び合うイベントです。

評価のポイント

- ・ 共生社会実現のため、多様な文化的背景を持ち合わせている人々との交流を大規模で実施していることは注目に値する。回を重ねるごとに規模が拡大している点も、活動としてポテンシャルがある。
- ・ 企業や自治体、国際機関等も含めた多様なステークホルダーとの協働を実現している点は評価される。

令和3年6月(予定) 国際審査会

令和3年7月～8月(予定) 受賞者の発表

令和3年11月(予定) 表彰式

詳細：https://www.mext.go.jp/unesco/004/1415535_0001.htm



SAAB2020 特設ホームページ



SAAB2020 プレゼンテーション



SAAB2020 フィナーレ



SAAB2020
コロナ感染予防対策チェック

春休み レポート

学校試写会「ブータン山の教室」

ブータンと星槎グループとの関わりの歴史は、世界こども財団・宮澤保夫理事長の個人的な交流から始まり、組織的、継続的な協力関係を持つものに変化しながら30年以上の歴史があります。

二国を繋ぐいくつものプログラムの中には、両国を代表した国際交流や外交の取り組みに発展しているものもあります。ブータン研修旅行(フィールドトリップ)はもちろん、現在、星槎にはブータンからの留学生が在籍し北海道や神奈川で学び合っています。

世界がどんなに変化してもブータンは独自の自然と伝統、文化を大切に守り続けています。幸せとは何か。人としての本質的な関わりや自然な関わりとは何なのか。ブータンという土地に降り立つと、誰もが瞬時にタイムスリップして、何処か懐かしくもあり、生かされていることや古き良きものについて考えさせられることがあります。自分を認めること、他人を認めること、そのひとつひとつの積み重ねが、共に生きる社会へと繋がります。共生社会の実現にはブータンから学ぶことがたくさんあります。

そんな中、ブータンを日本中の多くの人たちに知ってもらおう機会として映画「ブータン山の教室」が完成、2021(令和3)年4月3日(土)より全国順次開校(公開)されています。

そしてこの度、小さな繋がりをご縁から、ブータンと深く長い関わりを持つ星槎グループの生徒・学生・職員向けに「関わり合

い・共育・学び」を考える機会として学校試写会を実施することが出来ました。3月30日(火)桜が満開の星槎国際八王子(星槎高尾キャンパス)のログハウスをメイン会場にして、全国のブータンを知りたい生徒・学生、教職員約200名がオンラインで参加しました。

映画上映に始まり、終了後は映画監督のパオ氏も台湾よりオンラインで参加してくださいました。映画を撮ることになった経緯や裏話、そして、俳優陣の個別のエピソード等、とても貴重な学びの機会となりました。

映画上映に始まり、終了後は映画監督のパオ氏も台湾よりオンラインで参加してくださいました。映画を撮ることになった経緯や裏話、そして、俳優陣の個別のエピソード等、とても貴重な学びの機会となりました。

世界こども財団、並びに星槎グループでは、引き続きアジアの源流を豊かに混えるブータンを知り、日本や自分自身の在り方、そして共生社会の在り方を想う機会を今後も大切にしていきたいです。この映画は、上映中です。お近くの映画館は映画のホームページから御確認頂けます。是非ご覧になられてください。



<https://bhutanclassroom.com/>



世界遺産「アスマラ」・日本大使館の新規開設

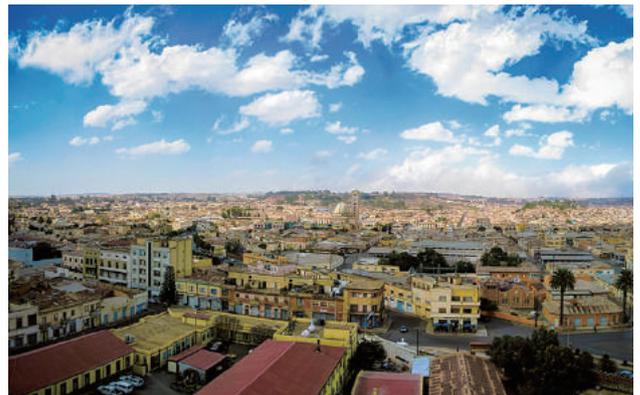
エリトリアの首都アスマラは、標高 2350m に位置し、年間平均気温が 17℃、冬季（11～1月）でも半袖で過ごせる穏やかで快適な気候です。アスマラ市は、古くから商業の中心地でした。マラリアを媒介するハマダラカがいなかったことから 1883 年にイタリアの軍事基地が建設されました。1897 年、同国の首都となり、イタリアのアフリカ大陸進出の要として、「第二のローマ」として開発されてきました。

1900 年、イタリア領エリトリアの首都となったことで、ヨーロッパ風の街並みが発達します。エリトリア人地区にあるアフリカの伝統的な家並みやイタリア風コロニアル建築が立ち並んでいます。20 世紀アフリカにおけるモダニズム建築、および都市計画の優れた例証となっています。そのため、現在でも世界有数の規模で 1920～1930 年代のイタリア植民地時代のアールデコ建築が残されています。美しい煉瓦作りのヴィラ、斬新な現代建築があちこちに見られ、イタリアの遺産とアフリカの風土が溶け合った独特の魅力を醸し出しています。古来より宗教が共存してきた街でもあり、カトリック大聖堂、モスク、テワフド教会、シナゴークなどが立ち並び風景からは、異文化に寛容な懐の深い都市の魅力が感じられます。

アスマラ市は、2017 年ポーランド・クラクフで開催された第 41 回世界遺産委員会において「アフリカのモダニズム（近代主義的）都市」としてユネスコの世界文化遺産に登録、エリトリア初の世界遺産になりました。

2020 年 12 月 21 日、日本の内閣はアスマラに日本の大使館を開設することを決定しました。日本とエリトリアの外交関係は、1936 年 9 月に日本と「イタリア領エリトリア」との間で樹立されました。日本企業は、1960 年代後半

から 70 年代前半にかけて、エリトリアの皮革、綿、家庭用品、アルミニウム、その他中小製造業に投資を行いました。日本は 1970 年代初頭にアフリカに向けた海外経済協力基金（OEFC）を開始、1974 年 2 月にはマサワ港やアッサブ港開発のマスタープランが海外技術協力事業団（OTCA）によって完成されました。尚、東京港区にある駐日エリトリア国大使館は、2003 年 7 月に東京に開設されました。



アスマラ市街パノラマ写真



アスマラの教会

多くの仲間と共に未来へ繋がる活動へ

FGC 会員の皆様へお知らせ

この度、FGC ニュースの英語版を発刊することになりました。ホームページ、Facebook や Instagram は、日英バイリンガルの併記対応をしています。隔月発行のニュースレターは、日本語のみで提供させて頂いたものを、これから発行するニュースレターと過去に発行したバージョンも英語で提供できるよう随時更新中です。英語版は、FGC ホームページの英語ページよりダウンロードできるようになっています。

<http://www.fgc.or.jp/english/>

